

月刊

# ENGO

6月号

2012年6月1日

カトリック大阪大司教区ENGOプロジェクト

発行責任者：松村繁彦

連絡先：TEL：090-5258-5704

(平日 18時～21時)

FAX：06-7494-9845

e-mail: engo@osaka.catholic.jp

## “親身な世間話を” ～大船渡から～

今月は大阪教会管区大船渡ベース『地の森いこいの家』(以後、大船渡ベース)で事務局長をされている深堀崇さんに話を伺いました。

「はじめまして。私たちが活動をしている大船渡ベースは今年の一月に開所式を迎え、約半年が経ちました。

その間、多くのボランティアの人たちに来て頂き精力的に活動を行っていただきました。心から感謝を申し上げます。ありがとうございます。

今回、大船渡ベースでの活動の一つである“心のケア”についてお話をさせていただきます。

現在、大船渡では“心のケア”の必要性を強く感じています。その理由は、震災から一年が経ち、人との交わりを避け自宅に引きこもる人が増えてきているからです。



ゆったりとした世間話

家族や愛する人たちを亡くし、仕事もなく、地震や津波の傷跡だけが残り、生きる気力が起きない状態の人たちに対して、大船渡ベースは心のケアを通してかかわりを持つことが大切だと感じているのです。

たわいもない世間話からでも常にそばにいて、ゆっくりと親身に話を聞くことによって、その人たちとのつながりを持ちたいと思っています。

そのために大船渡ベースでは以前、南三陸から心のケアの専門家である堤澄子さんをはじめ、講師の方々を招き勉強会を行いました。

堤さんは神戸中央教会の信徒で震災後すぐに南三陸に入れ、現在まで活動をされています。



講師を招いての勉強会風景

現地では心のケアのためのカフェ『ケアカフェ心香』を運営されていて、多くの仮設住宅や地域を周っておられます。スタッフの中には自身も被災をされた人がおり、ともにひたすら痛むいのちに寄り添う活動を続けておられるのです。

私たちも一人でも多くの人たちと親身になって寄り添う気持ちを大切にしながら“心のケア”の活動を行っていかうと思っています。どうかこれからも大船渡ベースにご協力をお願い致します。」

## ～“忘れないで”～

また、深堀さんの話に出ていました堤さんから手紙でメッセージを頂きました。

「被災地から離れたところで生活していると少しずつ震災の記憶が薄れていきます。時々神戸に戻ってみると、そこでの生活は岩手や宮城、福島での出来事が遠い昔のことのような錯覚を抱いてしまいます。でも、現地に帰ってくると心に負った傷から癒えずに苦しみ続けている人たちがたくさんいるのです。その人たちと話をしているよく耳にするのが、“私たちのことを忘れないでほしい”ということばです。



地震や津波は過去の出来事ですが、それによって傷ついた人たちの苦しみは今も続いています。

どうか、日常の生活を送っているみなさん、被災地で暮らす人たちに対して想いを馳せて下さい。

そして、もし機会がありましたら、ぜひ現地に来て下さい。そこで自分の目で見て触れて感じたことや、出会いを通してたくさんの方のことを体験して下さい。」

## お知らせとお願い

大船渡ベースでは映画鑑賞会を企画しました。

大船渡には大阪や神戸と違って遊戯施設がありません。できれば、体を動かすような施設ではなくても、気持ちがリフレッシュできるような方法はないかと考えて、これから定期的にベース内で映画の上映を行うことにしています。

もしみなさまの手元に眠っている映画やドラマのDVDがございましたら、ぜひ ENGO プロジェクトまでご寄附または連絡を下さい。よろしくお願いいたします。



## パネルの貸出し

また、被災地で撮った写真のパネルを貸出しています。

個々のグループで勉強会などを行うときに必要でしたら気軽にお申し出ください。数に限りがありますが、貸し出しいたします。



(B4版 約10枚セット)

